

こんな機能が使えます

デジ町(デジタル町一丁目)LINEアカウントを友だち追加すると、身近なまちの情報を検索できたりお得で役立つお知らせが届きます。市では、デジ町を運営するアニバーサリーコンサル(株)と連携協定を結び、災害対策への取り組みを始めています。



まずは友だち登録とアンケート回答!

友だち登録ができたなら...

画面下部にある「防災」を押します



使いたい機能を押します

最寄りの避難場所検索



現在地から半径3km圏内の避難先を表示

安否発信



LINEで現在地情報とメッセージを送信

全国どこでも使えます!

動画をチェック! 詳しい使い方は



地震は急にやってくる!

防災対策課職員が考える南海トラフ地震対策



これだけはやろう!

絶対やろう!

避難場所の位置とルートの確認を!

津波ハザードマップ



避難場所と避難所、津波浸水想定区域が確認できます

大事なのは、地震が発生した時にすぐに逃げて、とにかく生き残ること。その後の生活や備蓄品も生き残らなければ成り立たないし、使えません。すべての対策ができるのが一番ですが、まず始めにしてほしいのは逃げることへの備えです!

避難場所と避難所の違いって?

津波などの切迫した災害の危険から一旦逃げるための場所

避難場所



災害で自宅へ戻れなくなった人たちが一時的に滞在する施設

避難所



指定とついているのは何?

避難場所・避難所の中には「指定緊急避難場所」と「指定避難所」というものがあります。震度7クラスの地震が起きても安全と診断された場所や建物で、市町村が指定しています。もちろん自然が相手なので、100%絶対大丈夫と言えるわけではありません。複数箇所を確認しておくより安心です!

それ以外の対策も

できることからやってみましょう!

自宅の耐震対策



非常持ち出し品・備蓄品の準備



地震発生時の行動シミュレーション



輪島市役所



ベースキャンプ



調査の様子



令和6年能登半島地震 被災地での活動を経て

派遣職員: 防災対策課 篠田圭佑主査

最後に、大規模災害が起こると私たち自治体職員は休みなく働くことになる可能性があります。今回の地震では輪島市職員が夜通しで作業し、限界まで働く姿を見ました。南海トラフ地震が発生した際、私たちも休みなく災害対応に当たることとなります。その時のために職員一人一人が、これまで以上に防災・減災に対してしっかりと向き合い、備えていかなければならないと感じました。

職員としての責務

今回、大きな被害があったのは石川県の中でも一部の地域だったので、全国各地から給水車等の水の支援がありました。しかし、南海トラフ地震時は被害規模が広域の可能性が高く、香南市に支援が必ず来るとは限りません。市では飲料水や浄水器の備蓄、また耐震性貯水槽の整備をしていますが、いざという時に有効に活用できるよう、訓練等を通じ市民の方へ使い方の周知を積極的に行っていくことが必要だと感じました。

また、生活拠点となった日本航空石川高校の室内練習場も断水のため、トイレや歯磨きをするにしても徒歩15分程かかる能登里山空港まで行く必要がありました。洗濯もできず、特に衛生面で派遣生活には苦勞しました。そういった経験から、災害時は水の確保が特に重要だということを変更して認識させられました。

輪島市では、市役所や空港を除いた全域で断水の状態でした。本来としてはいけないのですが、トイレが近くないので、水分補給を減らして活動してしまいがちでした。水が少なくなると、活動自体が少なくなってしまうと感じることがありました。

水の確保が重要

今回は、罹災証明書の発行に必要な住家被害認定調査業務に従事しました。現地にあるすべての建築物の判定を行う調査班と、本部で判定度合いなどの調整を行う運営班の2班で活動にあたりました。私は主に調査班として現地の建築物の判定を行いました。今回の調査では、外観による基礎を含む外壁の損傷状況や柱・壁の傾斜の測定等を実施し、「全壊」「半壊」などの判定を行いました。高知県派遣チームが調査した地区は山間部でとにかく寒く、雪も積もっていました。雪の下に亀裂や瓦、ガラス、釘等が散乱している危険な状態で、釘を踏みケガをした職員もいました。

総務省応援派遣室を通じて、高知県の第2陣として、県職員3人および県内の市町村職員5人の計8人で石川県輪島市に派遣されました。同様の応援要請で、高知県のほかに北九州市、福岡市、熊本県、広島県、山口県が輪島市へ駆け付けました。

